

調査実施要領にありますように、本調査結果は、学力や学習状況の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、学校として以下の結果について真摯に受け止め、子どもたちの学力並びに学習意欲の向上に努めてまいります。保護者のみなさんのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【学力状況調査】 <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

【国語】	【数学】	【英語】
<p>(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項</p> <p>(2) 情報の扱い方に 関する事項</p> <p>(3) 我が国の言語文化 に関する事項</p> <p>● 本校 ▲ 大阪府（公立） ● 全国（公立）</p>	<p>A 数と式</p> <p>B 図形</p> <p>C 関数</p> <p>D データの活用</p> <p>● 本校 ▲ 大阪府（公立） ● 全国（公立）</p>	<p>(1) 聞くこと</p> <p>(2) 読むこと</p> <p>(3) 話すこと [やり取り]</p> <p>(4) 話すこと [発表]</p> <p>(5) 書くこと</p> <p>● 本校 ▲ 大阪府（公立） ● 全国（公立）</p>
<p>全体的な状況</p> <p>・「話すこと・聞くこと」「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」の3領域で、大阪府・全国の平均を上回っていた。また「言葉の特徴や使い方に 関する事項」では大阪府の平均を上回っていた。</p> <p>・選択式・短答式の問題形式で、大阪府・全国と比べて正答率が高かった。</p> <p>成果</p> <p>「我が国の言語文化に関する事項」において、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は、正答率が非常に高かった。これは授業において基礎事項を繰り返し練習した成果である。</p> <p>「話すこと・聞くこと」において、スピーチ・ビブリオバトル・話し合い活動などの学習活動に取り組んだことが成果につながった。</p> <p>課題</p> <p>「書くこと」の領域に課題がみられた。特に「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題では、自分の考えを持つことはできていたが、根拠を明確にして伝わる文章になるように書くことができていなかった。</p> <p>課題解決に向けた取組み</p> <p>・文章を書くとき、自分の考えが相手に伝わるように、常に相手を意識して、根拠をもって書くことができるよう、指導を行っていく。また、子どもたちが主体的に学習活動を行い、自分の書いた文章を交流できるような学習も取り入れていく。</p>	<p>全体的な状況</p> <p>・「図形」「関数」「データの活用」の3領域の正答率が大阪府・全国平均を上回っており、全体でも大阪府・全国平均を上回っていた。しかし、「数と式」では、大阪府・全国平均を下回っていた。</p> <p>・選択式・短答式の問題形式では、大阪府・全国と比べて正答率が高かったが、記述式では大阪府・全国に比べて低かった。</p> <p>成果</p> <p>・毎授業で前時までの復習をしていることや、習熟度別少人数分割授業により個々の課題にそった指導が成果につながった。</p> <p>・「関数」や「図形」領域では、ICT機器の活用により、視覚的に分かりやすく解説できた。また、ICTの活用により、演習問題の時間を今まで以上に確保できたことが成果につながった。</p> <p>課題</p> <p>・「数と式」において課題がみられた。自然数を選ぶ問題では、自然数の定義を正確に理解できていなかった。</p> <p>また、記述式の問題で、自身の考えを数学的な表現を用いて説明することができていなかった。</p> <p>課題解決に向けた取組み</p> <p>・言葉の意味や数量の関係などについての理解で、語句の定義を理解させようで問題に取り組ませる。</p> <p>・身近な出来事や具体的な出来事を材料として課題を与え、考えを記述したり発表したりする課題に取り組む。</p>	<p>全体的な状況</p> <p>「話すこと」の領域において、全国平均を上回り、「書くこと」の領域においては、大阪府・全国平均を上回った。「聞くこと」「読むこと」の領域において、大阪府・全国平均を下回った。短答式・記述式の問題形式では、大阪府・全国と比べて正答率が高かったが、選択式では大阪府・全国に比べて低かった。</p> <p>成果</p> <p>生徒が主体的に活動できるよう、ペアでの意見交流や、発表の場を定期的に設定した。また、自分の考えを文章でまとめる機会を作り、既習事項を活用して自己表現できるよう個々への指導をおこなったことが、成果につながった。</p> <p>課題</p> <p>「読むこと」の領域に課題が見られた。グラフや情報を正確に読みとる力や、まとめた文章の要点をとらえ、判断する力が十分ではなかった。</p> <p>課題解決に向けた取組み</p> <p>まとめた文章を読みとり、概要をつかむ学習を継続して取り入れていく。日常的話題や社会の課題についての関心をひろげられるよう、授業で紹介したり、調べて発表したりする活動に取り組み、4技能をバランスよく学習できるようにする。</p>

【学習状況調査】

状況が良好な主な項目		本校	府	全国
朝食を毎日食べていますか	【食べている・どちらかといえば食べている】	92	89	91
自分には、よいところがあると思いますか	【あてはまる・どちらかといえばあてはまる】	84	78	80
先生は、あなたのよいところを認めていると思いますか	【あてはまる・どちらかといえばあてはまる】	96	87	87
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	【あてはまる・どちらかといえばあてはまる】	78	69	66
将来の夢や目標を持っていますか	【あてはまる】	51	38.5	39.4
1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか？	【ほぼ毎日】	63.3	26.4	28.1
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	【役に立つと思う】	69.4	56.1	58.7
課題を残した主な項目		本校	府	全国
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	【あてはまる・どちらかといえばあてはまる】	67	77	78
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	【あてはまる・どちらかといえばあてはまる】	65	76	78
学校に行くのは楽しいと思いますか	【あてはまる・どちらかといえばあてはまる】	76	80	82
友だち関係に満足していますか	【あてはまる・どちらかといえばあてはまる】	80	86	87
読書は好きですか	【あてはまる・どちらかといえばあてはまる】	57	61	66

全体的な状況

成果

- ・朝食をしっかりととれている生徒の割合が高い。
- ・自分にはよいところがある。先生に認めてくれている。相談できるなどの値が高く出ている。また将来の夢、目標をしっかりと持つことができている割合も高い。
- ・タブレットの活用率が高く、また勉強に役に立つと感じている生徒の割合も高い。

課題

- ・寝る時間が一定ではない割合が高い。
- ・4月18日に実施した調査になるので、3年生新しいスタートとなり、学校生活に不安な面もみられるのかと考えられる。

課題解決に向けた取組み

- ・修学旅行、葛中祭(スポーツの祭典、文化の祭典)などの取り組みを通して人間関係づくりなどを意識して取り組んでいきたい。

○保護者のみなさんへ(全体を通じて)

・子どもたちの学習意欲向上には、基本的な生活習慣(生活リズム)(「朝食を食べる」「同じ時刻に寝る」「同じ時刻に起きる」)を整えることが重要です。今回「朝食を毎日食べていますか。」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか。」は高い値を示したが、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」は府平均、全国平均よりも10ポイント低い値を示しました。

・令和3年度の考察で、『2021年度に指導要領が全面実施となり、①自分の考えを述べる力(判断根拠を明示して)②情報活用能力③主体的に学ぶ力④豊かな人間性といった将来の社会を創り出す子どもたちに必要な資質・能力を育む教育が学校に求められています。そのために、子どもたちとの信頼関係を様々な取組みにおいて築き、子どもたちの自己肯定感の高揚を図っていきたくと思っています。』と挙げてきました。その成果が今回の結果で見えたのではないかと感じます。

・今回は4月の調査実施になります。4月以降修学旅行、リーダー研修(卒業生の話)、葛中祭の取り組み等、様々な取り組みを実施してきました。お子様の成長につなげていくために1つ1つの取り組みについて、意識していきたいとあらためて感じております。今後とも、各家庭で、学校での出来事や様子について、お子様の話に耳を傾け、気になる変化があればご遠慮なく学校にご連絡ください。学校と家庭が連帯して子どもたちを育てていきたいと思っていますのでご協力お願いいたします。